別添

令和５年上半期の死亡重傷事故の分析

令和５年８月

１　交通事故発生状況

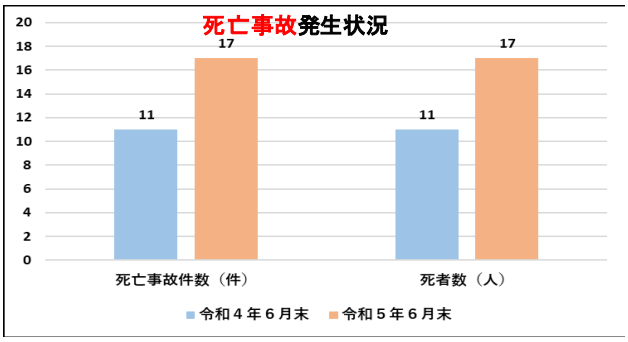
県下の交通事故の発生状況については、発生件数、死者数、負傷者数のいずれもが、前年同期と比較して増加しており、特に死者数は、その増減率が一時期全国ワースト１位に位置するなど、厳しい情勢が続いている。

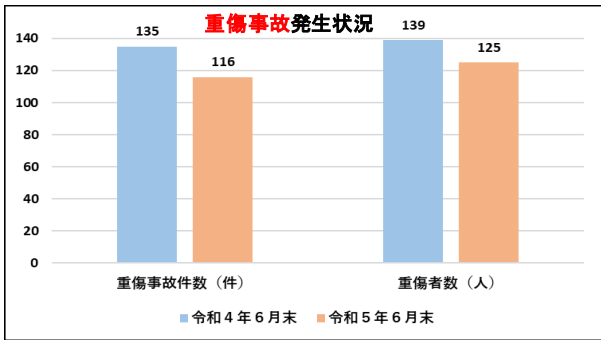
発生件数 1,263件（＋37件）、死者数 17人（＋６人）、負傷者数 1,591人（＋44人）

２　死亡重傷事故の特徴

(1) 死亡重傷事故の発生状況

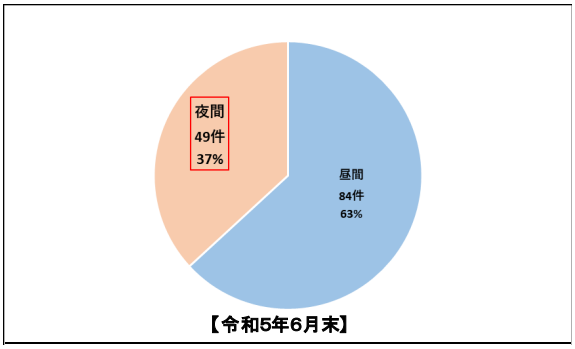
死亡重傷事故については、前年同期と比較すると死亡事故件数及び死者数は増加、重傷事故件数及び重傷者数は減少している。

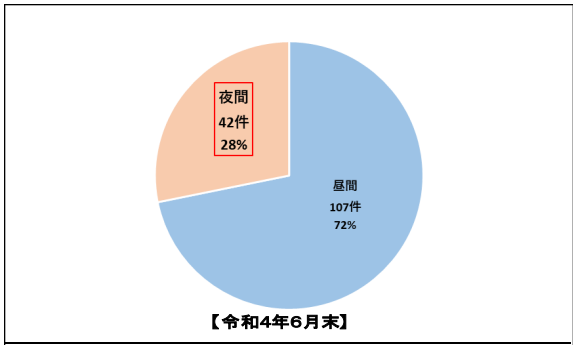




(2) 死亡重傷事故の昼夜別発生状況

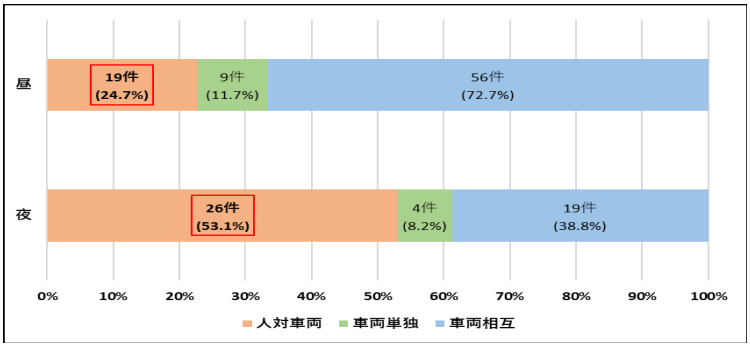
死亡重傷事故は、約４割が夜間に発生し、夜間の死亡重傷事故の発生件数を前年同期と比較すると、人対車両は、７件増加しており、構成率は９ポイント増加している。





(3) 死亡重傷事故の類型別発生状況

死亡重傷事故の類型別に係る発生件数を昼夜別で比較したところ、昼間に比べ、夜間の人対車両は、７件多く発生しており、構成率は28.4ポイント高い状況である。



(4) 夜間の事故類型別・年齢層別の死亡重傷者数

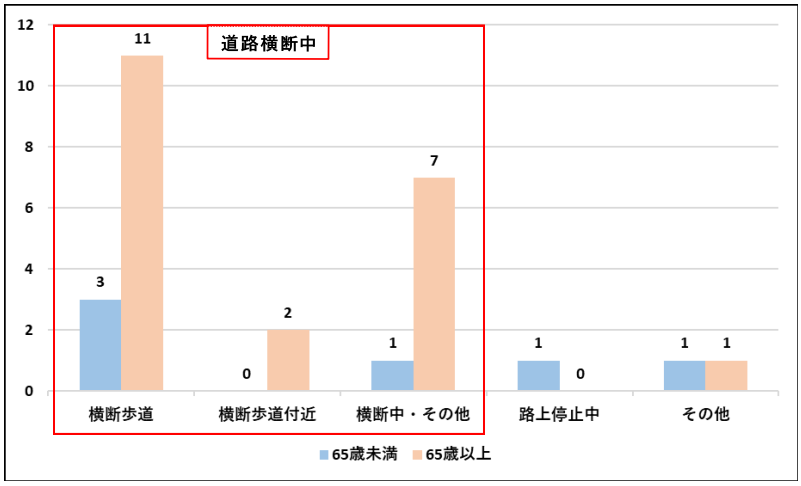
夜間の事故で死亡重傷となった人を事故類型別と年齢層別で比較したところ、高齢者の比率が高く、その中でも人対車両によるものが最も多く、27人の内、21人が65歳以上の高齢者で約８割を占めている。

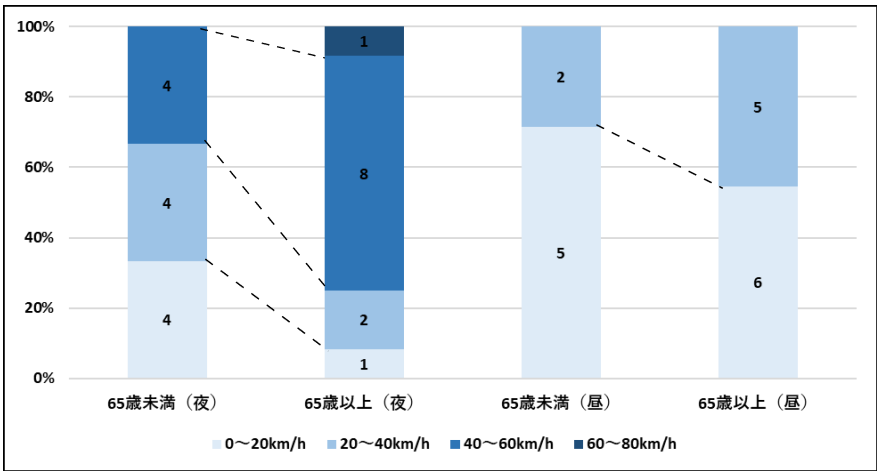
	人対車両	車両単独	車両相互	合計
65歳未満	6	4	18	28
65歳以上	21	0	2	23
合計	27	4	20	51

(5) 夜間の人対車両別・年齢層別の死亡重傷者数

人対車両の夜間での死亡重傷者数は、道路横断中が最も多い。

さらに、65歳以上の高齢者が道路を横断中の事故(20人)の内、横断歩道を横断中の事故(11人)が半数以上を占めている。



(6) 横断歩道での死亡重傷事故における第１当事者の危険認知速度の状況

横断歩道上で死亡重傷事故を起こした第１当事者（原付以上）の危険認知速度を昼夜別と年齢層別で比較したところ、65歳以上が夜間に高い速度域で事故を起こしている。